

10/31AM6:30 県安曇野庁舎駐車場に 18 名が集合し、5 台の車で出発。天候は快晴。紅葉する常念山麓に登り、一ノ沢登山口へ向かう。登山口で 3 名と合流し、準備を整え AM7:45 総勢 21 名で一列縦列で出発する。15 分程進むと、樹齢 400 年の榎の木が立つ“山ノ神”に到着。手を合わせ、登山の無事を祈る。



枯葉積る唐松道の登山道



豪快な常念岳を望む



枯葉が降り積もる唐松林の山道を 2 時間も登ると、沢が合流する河原に出る。展望が開け見上げると、僅かに新雪を頂く常念岳を望む。ここから、右岸に渡り、川沿いの凍りついた急な登りを進む。再び左岸に渡り、枯れ草に覆われた山腹の巻き道を経て、1 時間程で最後の水場に到着する。

小休止後、森林帯の急な坂道を、一步一步登る。木々の間からは常念岳山頂へ続く、豪快な稜線が迫ってくる。東に遠く霞む浅間山を望み、ようやく PM12:30 涼風吹く乗越に登り出る。突然正面に、槍ヶ岳から穂高への白銀に輝く稜線が、目に飛び込んでくる。登りの疲れも、いっぺんに吹き飛ばすようだ。



乗越から白銀の槍穂を望む



大天井を望み山頂を目指す



常念小屋で昼食を摂りながら、明日の天候悪化の情報を得て思案し、PM1:30 軽荷で常念岳山頂へ向かう事とする。小屋から、いきなりの急な斜面の岩道に、ところどころ雪が積もり、滑らないように注意して登る。8 合目付近の緩斜面から山頂まで白雪が覆い、雪を踏みしめて一歩、一歩登る。吹く風は微風、初冬の斜陽が稜線を寒々と照らす。振り返ると大天井岳の北方に、真白な立山、剣岳そして鹿島槍が遠望され、西方に連なる槍、穂高岳連峰に白雲がたなびく。

9 合目からの急な雪斜面を登り切りると、PM3:00 常念岳山頂に見事登頂する。「バンザーイ!」。山頂は花崗岩石が露出し、私達は、山頂に建つ祠の南側の岩に腰掛けて休憩する。穏やかな陽射しを楽しみながら、南、東にシルエット状に連なる山々を望む。私達は 25 分程留まった後、下山を開始する。



雪を踏みしめて一歩、一歩登る。



見事山頂に登頂



山頂からの槍ヶ岳のシルエット

岩場を滑らぬよう降下し、PM4:15、無事小屋に到着。泊す。夕食前、常念小屋特製ワインで祝杯を挙げ、親睦交流を行う。翌 11/1、強風の朝を迎える。天候が変わる兆しだ。AM7:45 常念小屋から下山を始める。往路と同じ一ノ沢ルートを通り降り、PM11:15 登山口に到着。PM12:00、須砂渡のほりで一湯で昼食を摂り、PM1:30 参加者の車が待つ県安曇野庁舎で解散とする。

「緊張して登った新雪の常念岳、あらためて自分の勇氣に、体力に自信を持った事でしょう。」